

## ■概要

このドキュメントでは、イーサネット経由でヤマハデジタルミキサーを操作する方法を説明しています。

ターミナルからコマンド実行する以外にも、Figure 53 社の QLab のようなショーコントロールアプリケーションから実行することにより、MIDI 接続をしないでミキサーを操作できます。

## ■このフォルダーの中身

- Python を使ってヤマハデジタルミキサーを操作するサンプルスクリプトファイル
  - command.py : 公開された任意のコマンドを実行するためのファイル
  - recall.py : CL シリーズや QL シリーズで指定したシーンをリコールするためのファイル
  - recall\_a.py : TF シリーズで指定したシーン(A 面)をリコールするためのファイル
- 使用可能なコマンドのリスト (command\_list.pdf)
- TF シリーズを QLab からコントロールするテストキット (TFxQLab/)

## ■必要な機器と設定

- ヤマハデジタルミキサー
  - TF シリーズ (V2.00 以上)
  - CL シリーズ / QL シリーズ (V3.11 以上)
  - \*可能な限り最新バージョンを使用することをお勧めいたします。
  - ミキサーの IP アドレスは 192.168.0.128 (固定アドレス)にしてください。
- Python (V2.7 以上)がインストールされ、動作するコンピューター
  - Windows、Mac、Linux の各 OS 上で動作します。
  - \* Mac OS X では Python がインストールされています。
  - コンピューターの IP アドレスは 192.168.0.100 など、デジタルミキサーと接続可能な IP アドレスを固定で設定してください。

## ■ サンプルスクリプトの実行

このフォルダー内のサンプルスクリプトファイルを使って、ヤマハデジタルミキサーを操作する方法を説明します。

### ● 準備

「必要な機器と設定」を確認しながら、ヤマハデジタルミキサーとコンピュータを LAN ケーブルで接続してください。

ターミナルアプリケーションを起動し、このディレクトリーに移動してください。

### ● 実行

ターミナルアプリケーションで以下のコマンドを実行すると、シーン#001 がリコールされます。

CL シリーズ/ QL シリーズの場合

```
python recall.py 1
```

または

```
python command.py ssrecall_ex MIXER:Lib/Scene 1
```

TF シリーズの場合(Scene A:001 がリコールされる)

```
python recall_a.py 1
```

または

```
python command.py ssrecall_ex scene_a 1
```

\* 上記コマンドで、引数の“1”を別の数字にすることによって、任意のシーンをリコールできます。

\* コマンドを使用してミキサーを他の方法で制御するには、"command.py"を使用します。使用できるコマンドの詳細は「使用可能なコマンドのリスト(command\_list.pdf)」を参照してください。

## ■ その他のソフトウェアとの連携

Figure 53 社の QLab のようなターミナルコマンドが使えるショーコントロールアプリケーションから上記コマンドを実行することにより、MIDI 接続をしないでイーサネット経由でミキサーを操作できます。

## ■ QLab にて Python コマンドを使用する際の注意点

- **Wait time** を”0”にして複数のコマンドを実行すると、一部のコマンドが実行されない場合があります。**Pre Wait** を”1”などに設定すると正常に動作します。
- スクリプト中のファイルのパス指定においてカッコ、及び 2 バイト文字を使用すると正常に動作しない場合があります。